

## 一合目から歩く富士山・須山口古道（個人山行）

（報告）FY

◎期日：2023年9月13日（水）～14日（木）

◎メンバー：FY 単独

6月の終わりに、この古道を歩く予定だったが生憎の台風のため延期し、山じまいの頃にやっと歩くことができた。須山口古道も村山古道と同じく江戸の昔から富士講の人々に歩かれた道だ。しかし宝永山の噴火で道が無くなり廃道になってしまった。明治の頃に宝永火山噴火口の両側に登山道が作られ、ある程度復活したようだ。

江戸末期、通訳官としてイギリス公使として来日したアーネストサトウ（尾瀬の保護運動を進めた武田久吉は彼の長男）は明治に須山口、村山口、吉田口、須走口、人穴口と五つのルートから富士山を登っている。しかし大正・昭和と登山者が絶え、これらの道は再び廃道になる。この道が復興されたのは平成に入ってからだ。平成11年、地元有志の努力で復興され宝永山の噴火口の両側に須山口登山歩道・下山歩道が復活した。村山古道はまだ復興されていない。

須山口古道は一合目の須山浅間神社 600m から出発するのだが、愛鷹山を西に見ながら二合目まで約5時間のアルバイトなので、私は路線バスを使い、二合目の水ヶ塚公園 1450mから出発することにする。ここは駐車場が広く、近くを散歩するトレイルも整備されている。この公園から眺める富士山は見事だ。雲が殆どかかっている豪快な景色だ。

早速森の中に向かい歩き出す。人は全くいない。苔むした静かな濃い森が広がる。倒木がそのままになり、苔が覆っている。村山古道のように石仏や小屋の跡など人工的な遺跡が何もない。全くの自然道だ。道はしっかりしている。テープングがしてあるので迷うことはない。ゴミも全く落ちていない美しい道だ。



苔むした静かな自然の道



宝永第一火口と富士山



6合目の道標

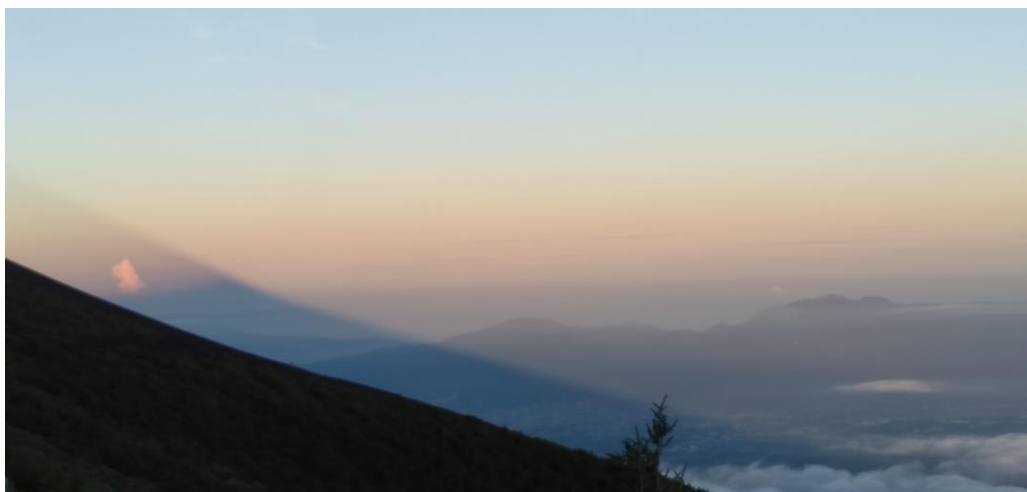
3時間程歩くと美しい樹林帯が途切れ、視界が広がる。宝永火山噴火第三火口が現れる。ここからの眺めは迫力がある。第二火口、第一火口そして宝永山。岩だらけの噴火口だ。宝永山は1707年12月に噴火し2週間ほど続いたそうだ。徳川綱吉の頃、火山灰が江戸の街を5cmほど覆ったそうだ。

ここで心地よい風を受け暫し休む。富士山の上に雲が流れている。

第一火口の分岐から西に砂利道を30分歩くと6合目「雲海荘」2640mが現れる。隣の「宝永荘」は今日30人の団体が来るので忙しそうだった。ここは明後日小屋を閉めるそうで、片付けで忙しそうだった。影富士が東の雲に映えている。客は私と二人の男性のみ。ガラガラだと思ったら本日はノルウェーの20人の女性グループが泊まるそうだ。

5時頃団体客がドカドカとやってきた。16名が女性、1名男性、日本人ガイドが2名で日本人専属カメラマンが1名。非常に明るい人たちだった。私が6年前にオスロやトロムソやハムイセニヤに行ったことを話すと話が弾んだ。彼女達は約2週間かけて日本を旅している。熊野古道・京都・槍ヶ岳・富士山だそうだ。一昨日は槍ヶ岳に登ってきたそうだ。上高地から入り登ったそうだ。けっこうハードな登山だと思うが皆さんお元気そうだ。槍と富士山を連続して登るとするのが面白い。40代~50代の方々だ。1台のバスをチャーターして日本を旅しているそうだ。明日は浅草に行き、帰国すると言っていた。

ベーコンをつまみにスコッチのハイボールを呑む。6時に夕食のシンプルなカレーを頂き、8時消灯。



影富士が広がる



富士山の火口は広い

14日は2時に起きる。ノルウェーの団体は既に出発した。私はトイレ・ストレッチ・パッキングを済ませ3時に出発する。天空の星が素晴らしい。オリオンが南の空に堂々と輝いている。先行グループのヘッドランプがきらきらと輝いている。伊豆半島の西の空が明るくなる。相模湾がキラキラと美しく輝いている。5時16分が日の出だ。風が無いのでダウンを脱ぐ。吉田口の小屋は8月中に閉めるので静岡側の小屋が開いているのは有り難い。でも静岡側も7合目・8合目の小屋は10日に閉めたそうだ。富士山の五合目から登る道はガレっていて歩きにくい。つまらない道だ。しかし雲の流れの眺めが良いので何とか我慢して歩く。

8時、山頂に到着。殆ど人がいない。この広い空間を独り占めしている。自由だ。この開放感が堪らない。疲れも吹き飛ばす。富士山火口も巨大な口を開けている。積乱雲が下から登り始めた。富士山はまだ夏だ。

晴天の中、下山する。隠れる場所がないので、日よけの帽子がないときつい。ぽつんぽつんと登山者が登ってくる。それでも50人はいない。トレランの練習で登る人もいる。小学生のとき以来35年ぶりと言う男性は八合目から引き返して行った。6年ぶりに来たという76歳の男性も七合目で引き返した。やはりきつい道なのだ。大汗をかきながら下山を続ける。気がつかないうちにノルウェーの団体を追い越していた。

11時に小屋に着く。8時間の歩行だった。昨夜作ってもらった朝食も食べていなかったのも遅い朝食を頂く。「卵ラーメン」700円を頼むと叉焼とメンマが大盛りだ。私が今年最後の客なのでサービスしてくれたとの事。嬉しいおもてなしだ。13時に富士宮五合目に降りる。実は一つ失敗した。JR裾野駅からは二合目まで路線バスが通っていたので富士宮五合目にも路線バスが通っていると思い込んでいたが、富士宮の路線バスは10日で終了していた。慌てて近くにいたタクシーに頼み、他のタクシーを呼んでもらった。一時間ほど待ってタクシーに乗りJR富士宮駅まで行った。

昔、富士山は眺める山で登る山ではないと思い込んでいたが、キリマンジェロに登るための高度順応で初めて富士山に登ったのが50歳。それから毎年なんやらかんやらで、今回は古希で20回目の記念登山だった。丈夫な体に産んでくれた親に感謝し、これからもぼちぼちと歩いていきたい。

#### 《コースタイム》

1日目(9/13)晴天：歩行4時間 一泊夕食・弁当8000円。

新宿—9:00JR裾野駅—9:46バスで水ヶ塚公園 10:55着

11:00 弁一宝永山第三噴火口跡—15:00 雲海荘

2日目(9/14)晴天：歩行8時間

3:00 雲海荘弁—5:16 日の出—8:00 山頂 8:30 下山開始—11:00 雲海荘着

12:00 富士宮五合目からタクシー—14:00JR富士宮駅—JR富士駅—小田原—新宿

資料 「アーネストサトウの明治日本山岳記」講談社学術文庫